

## 夏休みを利用して3週間の短期入院で乗り越えた

31歳 男性 入院 H25.8.3～8.24

学童期からアトピー性皮膚炎が生じていたが四肢屈曲部程度 大学時代から 背部にも皮膚炎が生じ近医にてステロイド外用治療を時々使用  
1年前から臀部に皮疹が慢性的に生じ 半年前から全身にアトピー性皮膚炎が生じるようになった 特に教師という仕事柄 運動系のクラブ活動の指導で発汗  
が多くそう痒が強かった。 近医皮膚科でステロイド外用 抗アレルギー剤複数処方されていたが 初めは効果があったが次第に効果が薄れ皮膚炎が悪化してきた。  
不安になり 2013.7.1 当院受診 全身の赤み・角化・落屑あり 肌の乾燥強くツッパリ感強く、屈曲など支障が生じていた。脱ステロイド治療を開始 抗真菌剤  
抗生剤の外用 内服を行ったが改善が悪く 8.5より入院しMSTを行った。

経過 2013.7.1より脱ステしたため8.5には皮膚炎は悪化している。教師という仕事柄 休みを取ることが困難で長期の休職も考えていたが夏休みを利用  
して3週間の入院治療を行った。皮膚炎が強いためCRPという炎症マーカーも高値だったが3週間の入院で皮膚炎はTARCの比較で1/20に一気に  
低下 入院前の非ステロイド治療での7種の抗生剤 抗真菌剤 抗アレルギー剤の内服 5種の外用剤から3週後の退院時は2種の抗アレルギー剤  
外用なしに減量でき 仕事に復帰できた。2か月後の10.1の外来時にはTARC LDH IgE 好酸球 CRPすべてが正常範囲になっていた。  
BSTの素晴らしい効果： ステロイドを使用しないのにステロイド以上に効いている

	正常値	2013.7.1	2013.8.5	9.11	外来10.1
TARC	450以下	4214	23452↑	1068↓↓	294↓↓
LDH	120～245	296	402↑	285↓	217↓
IgE	170以下	2159	1993	1498↓	1423↓
好酸球	7%以下	5.7	14.5↑	3.7↓	1.0↓
CRP	0.3以下		0.82	0.68↓	0.10↓
POEM 自覚症	最重症 20～28	26	28↑	11↓	11

BST 3 週後の写真 色素沈着は残存しているが  
赤みや隆起が消え 炎症が消えているのが判る。

2013.8.3



2013.8.24

